

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2019 年 8 月 1 日 発行
(通巻 482 号)

現代座レポート No. 79

- ・スクリーンで見る木村快の作品 第 2 回『出航』 (1)
- ・『出航』、そして『バラサン岬に吼えろ』 両角 憲二 (2)
- ・誰でもできる朗読教室 長谷川葉月 (3)
- ・ブラジル・アリアンサに立った信州人 長野放送 (4)
- ・会館日誌 会員入会、継続、寄付 (4)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987

スクリーンで見る木村快の作品 第 2 回 『出航』

「スクリーンで見る木村快の作品」シリーズ第 2 回『出航』の上映が 5 月 31 日、6 月 1 日、2 日の 3 日間、現代座 3 階小ホールで行われました。手探りだった第 1 回の『風は故郷へ』の成果と反省を踏まえ、みんなでスクリーンを置く位置や客席づくりを考え、リラックスできるようにほっじ茶を用意してお客様を迎えました。上映前には木村快が芝居の背景やビデオ撮影について説明して上映開始です。上映後には芝居に出演していた今村



次回候補作品 **遙かなる島** 1983 年制作



豊かさとは何か 遙かなる島 1983 年制作

高度経済成長の中で、「豊かさとは何か」を問いかけた作品。1960 年代、離島振興法によって、絶海の孤島でも急速な近代化が進められていた。農作物を運び出す道路や港の建設事業で日銭を稼ぎながら、肝心な島は荒れ果て、事業が終われば島を出なくてはならない不安。出口のない近代化に揺れる島は日本の縮図だった。人間はどう生きていくのか。

東京都青ヶ島村の協力を受けて制作された作品。

純二が思い出を語って挨拶しました。『出航』はぜひ見たいという昔からの支持者も多く、毎回満席になりました。上映後には 2 階を喫茶室にしてコーヒー等を飲みながら自由に語り合う場も作りました。「実行委員として取り組んでいただけどちゃんと見たのは初めてだよ」という方や、「ずっとこの芝居のことは話に聞いていたけど、はじめて見て語り継がれている意味が分かりましたよ」という人、「時代を振り返るだけでなく、だから今、何が出るかを考える場にしよう」と、楽しい交流の場になりました。

3 日目の日曜日は教育文化経営学院の学生さんたちが「劇場づくりを学ぼう」と受付・裏方を手伝ってくれました。教育文化経営学院とは現代座の 2 階を使って毎週開催されている教員志望の通信制大学生を支援する活動です。学習だけでなく幅広く経験を積む必要があるという高橋先生の方針もあり、このところ木村快の劇場論をいっしょに勉強したり映像を観たりしているのです。

これから『遙かなる島』や『星と波と風と』なども上映していけたらと思います。また『出航』の芝居の中で歌っている沖揚げソーランを実際に漁師さんに教えてもらった今村純二の体験なども語りとして作品にし観ていただけたようにしたいと思います。

ビデオ『出航』鑑賞会 そして『パラサン岬に吼えろ』

両角 憲一



もりずみ・けんじ
1948年群馬県生まれ。73年北海道大学卒。90年より和光中学教諭。2005年より和光中学高等学校・校長。15年3月退職。現在和光学園理事。
著書に『パラサン岬に吼えろ』（民衆社）『育てたいね、こんな学力』（共著・大月書店）など。

6月2日、ビデオ『出航』鑑賞会のため、現代座を訪ねました。熊（熊倉正博）さんと待ち合わせて行きました。木村快さんと久しぶりにお会いしました。ビデオ鑑賞後、快さんのお話を聞きました。

『出航』とは37年ぶりの再会でした。1982年の北海道厚岸公演に取り組んだ日々が思い出され、胸に温かなものがフツフツと湧きました。帰りに熊さんと一杯やりながら「あの頃」のことを語り合いました。帰宅して『パラサン岬に吼えろ』（民衆社）を本当に久しぶりに読み直しました。

『パラサン岬に吼えろ』……1982年1月発行、副題は「教育とは生徒にほれぬくこと……」、著者は33歳の両角憲一……という本です。最終的に12刷まで重ね、教育出版界では「教育実践書最後のベストセラー」と呼ばれていると漏れ聞いています。

私は、1973年4月、離島へき地の学校・焼尻高校で教職に就きました。3年後の76年、道東の厚岸町にある厚岸水産高校に異動しました。「荒れた学校」「恐い学校」で知られた学校でした。78年4月から担任した漁業科1年生は「後にも先にもこんなひどいクラスはないだろう」と言われるほどのツッパリぞろいでした。私は、ツッパリたちから徹底的にいびられました。「もう、やってられない」「辞めて、楽になりたい」と思ったことは何度あったでしょう。登校（出勤）拒否寸前

の状態にもなりました。そんな私を救ってくれたのは、10月1日の文化祭初日の丸木政臣先生（和光学園校長）の講演でした。丸木先生は『翼は心につけて』の少女・鈴木亜里さんについて語ってくれました。ツッパリ連中が涙を浮かべました。私は生徒の見方を変えられませんでした。その1ヶ月後に映画『翼は心につけて』が釧路市の映画館で封切られました。クラスの生徒の半数以上が私からチケットを買って観に行きました。クラスが変わっていききました。私は良い文化にふれる大切さを学びました。

翌79年3月、山田洋次さんの映画『同胞』を観る機会を得ました。見せてくれたのは、統一劇場オルグの熊さんと大畑孝子さんでした。『同胞』を見終わった後の『結婚』公演実行委員会準備会で、私は勢いで事務局長になっていました。

それからの日々は『パラサン岬に吼えろ』の「第5章 同胞」「第6章 統一劇場来る」「第7章 ほれっぽい教師に」で82ページを使っています。全体で302ページの本ですから、統一劇場『結婚』なくしてこの本は生まれなかったかと思っています。分量だけでなく、ここで、ツッパリたちと私との関係が質的に変化しています。舞台のぼらし・搬出作業を手伝うツッパリたちを劇団の人から「いい生徒さんですね」と褒められ、涙する私がいきました。生徒にほれぬきたい自分があることを自覚しました。

この本の最終第10章は「出航」としました。発売4ヶ月後に始まる統一劇場『出航』北海道巡演を十分過ぎるほど意識しての章立て・ネーミングでした。

◆ 4つの「ありがとう」◆

『出航』のチケットは面白いように売れました。『結婚』のときの苦労がウソのようでした。卒業したツッパリたちも実行委員会に加わりました。人口2万5千人の町で、千2百枚以上売れたと記憶しています。

『パラサン岬に吼えろ』の「第10章 出航」効果は、そこだけにとどまりませんでした。全道各地の『出航』公演実行委員会にどれだけたくさん小学校・中学校・高校教員が参加したか、統一劇場のオルグの人たちから聞きました。実行委員を経験した本人からも聞きました。その度に、私は「あの本を書いて良かった」と思いました。『出航』公演を通じて、私は4つの「ありがとう」が「ありがとうございます」に気がつきました。

一軒一軒訪問し券を買ってもらえたときの「ありがとうございます」が入りました。しかし、玄関を一步出ると「本当に来てくれるかな?」「義理で買ってくれたのかな?」の思いにとらわれました。

二つ目は、公演当日の受付で、生徒や父さん、母さんを迎えたときの「ありがとうございます」です。「本当に来てくれたんだ。良かった」の安堵を感じました。舞台が始まり20分ほど経過したところで、そとと会場を覗きにいきます。「(券を売った手前) 良い舞台でなければ困る」の思いで、観客の様子に目が行きます。観客がすっかり舞台上に集中している様子を見て、舞台の役者さんと音響・照明などのスタッフに向かって手を合わせ、「ありがとうございます」を心の内でつぶやきます。三つ目です。

そして、舞台が終わり、お客さん送り出しの時が四つ目です。実行委員から「ありがとうございます」の声をかけます。その時、お客さんが自分に券を売った実行委員に駆け寄り、「ありがとう。あなたのおかげで楽しい思いができたよ」「ナマの芝居はいいね。本当にありがとう」と返します。「ありがとう」がこだましているようでした。

『結婚』『遙かなる島』『風は故郷へ』『朝の風に吹かれて』……の連続ビデオ鑑賞会を企画してください。きつといくつもの「ありがとう」がこだまするはずですよ。

NPO現代座 誰でもできる朗読教室

講師 長谷川葉月



(後列左より) 下向道江、環笑子、井上照美、手塚修、木谷道宣
(前列左より) 藤巻愛、井上尚子、長谷川葉月(講師)、高嶋悦代、木村サチ子

第7期生発表会 作品名・作者・朗読者

第1部	「蜘蛛の糸」	芥川龍之介	下向道江
	「極楽」	菊池寛	藤巻愛
	「黄金風景」	太宰治	木村サチ子
第2部	「はだれ雪」	葉室麟	木谷道宣
	「静かな夜」	彩瀬まる	島見朋花 ★初参加
	「十七歳」	川端康成	岡崎佳子 ★初参加
	「ちいちゃんのかげおくり」	あまんきみこ	手塚修
第3部	「山桜」	藤沢周平	井上照美/井上尚子
	「桐畑に雨の降る日」	藤沢周平	高嶋悦代
	「魚服記」	太宰治	今井治江
	「夏祭りのリンゴ飴は甘くて酸っぱい味がする」 堀内公太郎 環笑子		

お知らせ ただいま第8期生募集中です

2019年9月開講 基礎訓練から舞台発表までの12回講座
 開講期間/ 2019年9月～2020年2月
 日時/毎月第2・第4水曜日(原則) ※1月のみ第3・第5水曜日
 昼クラス 13:30～16:00(満席) 夜クラス 18:00～20:30(募集中)
 定員/各クラス8名程度 料金/受講料 20,000円+教材費 1,300円
 ※お問い合わせ(現代座) TEL 042-381-5165 FAX 042-381-6987

6月26日(水)に「誰でもできる朗読教室」の第7期生発表会が現代座会館3階小ホールでありました。月2回の講座を6ヶ月間受講した生徒12人が発表し、34名のお客様がご来場くださいました。

発表会前日に、いつも受付をしてくださる方が今回は手伝えないと判り、私は内心焦りを感じながら、当日の朝に、みんなで受付を交代しながら本番を乗り切る必要があることを伝えました。そのほかにも、プロ

グラムの変更など、発表するみなさんには迷惑をかけて申し訳ない気持ちでしたが、全員焦ることなく協力しながら、スタッフ作業と出演とを上手にこなし、また初参加の2人も堂々と朗読をつとめ、チームワークの力に支えられた朗読会となりました。

今回のような夏の発表会では、エアコンの音に悩まされます。やはり、朗読の天敵は朗読以外の「音」といえるでしょう。今後、ステージ作りも考えていきますが、何よりもまず、次回9月から始まる第8期では、基礎訓練や発声練習をさらに工夫して、みなさんが楽しんでみながら、舞台朗読に適う声づくりができるようにしていこうと思いを新たにしました。

発表会では、嬉しいことも多くありました。その一つに、かつて朗読と一緒に学んだ卒業生が聞きに来て、「みんな本当にすごく成長していて驚いた。自分も頑張ろうと思えた」と、コメントしてくれたことです。朗読者本人は、つい失敗したことがかりに凹れてしまつたので、この言葉に、継続受講の人たちはとても励まされたようです。私はといえば、毎回、客席で朗読を聞きながら、読み手が最初の文章を読み始めたときに、あるときは江戸時代に、またあるときは少年の心の世界に、サーッと引き込んでくれる、その感覚がとても心地よく、そして物語が終わったとき非日常の時間を過ごしたことに満たされた思いになります。すぐれた作品を持つ文章の力だけでなく、読み手の個々の生き方が、表現として立ち現れてくることも面白さの一つです。今後、みなさんと朗読を深めていきたいと思えます。

末筆私事で恐縮ですが、この8月、初めての朗読会を催すことができるのも、朗読でご縁をいただいた多くの皆様のおかげにほかなりません。感謝の上なく有り難いことです。

第1回 長谷川葉月「朗読会」 日本のすばらしい文学を新たに朗読で楽しもう ～名作の夢世界へ～
 日時/8月14日(水) 13時開演、18時開演 会場/吉祥寺シアター
 演目/宮澤賢治『カイロ团长』・芥川龍之介『二人小町』・山本周五郎『鼓くらべ』
 演出/松永好訓(映画監督) 出演/長谷川葉月
 前売・当日共(昼夜指定・自由席) /一般2000円 中高生1000円
 チケット取扱い/●カンフェティ 0120-240-540 *通話料無料・オペレーター対応(受付時間 平日10時～18時)
 ●武蔵野朗読会 musashinoroudokukai@gmail.com
 お問い合わせ/武蔵野朗読会 090-7288-1158(石川)

ブラジル・アリアンサに立った信州人

長野放送（NBS） 5月24日放映



北沢瑞樹さん



小坂佑騎さん

ブラジルには大正13年（1924年）にブラジル人との「共生・協同」を理念として設立し、今なお日本文化を継承する唯一の日系人移住地アリアンサがあります。日本では全く知られていませんでしたが、今回長野放送が初めてこの移住地の姿を紹介しました。

この移住地にJICAと長野県の連携で、JICA日系社会青年ボランティアとして日本語教師・北沢瑞樹さん（塩尻市出身）が赴任しており、その活動と生活ぶりがいきいきと紹介されています。北沢さんの任期はこの7月で終わり、代わって小坂佑騎さん（佐久市出身）が赴任することになり、わざわざ木村を訪ねてきてくれました。

この移住地は大正12年に信濃海外協会の永田稠（しげし）が設立した信濃土地購買利用信用組合からスタートし、輪湖俊午郎がサンパウロ政府と折衝、北原地価造が開発を指導しています。組合員自らが出資・開発した大変珍しい「協同組合移住地」です。これを排除しようとする日本政府や移民会社との対立が当時大きな問題になりましたが、決して屈することなく闘いつづけ、「大正デモクラシーの遺産」と称されました。しかし現在、日系社会の公的移住史『ブラジル・日本移民80年史』ではアリアンサの歴史は全く触れられていません。そのため、長野県でもほとんど知られていませんでした。

映像では北沢さんが住みや子どもたちと交流する姿を淡々と描きながら、写真のように移住地の歴史をさりげなく紹介しています。長野県で紹介されたのは初めてという画期的な作品です。制作スタッフの皆さん、ありがとうございました。嬉しかったです。（木村快）



アリアンサ公園に立つ「三先駆者記念碑」 小原久雄制作



小原久雄 長野県佐久市

永田稠 長野県長野市

北原地造 長野県長野市

現代座会館 5月〜7月 活動日誌

5月12日 「現代座レポート78号」発送作業

12日 緑町第2町会役員会

19日 アリアンサ日本語学校派遣の小坂佑騎氏 長野の木村快を来訪

27日 現代座創造グループ会議

28日 ワーカーズ三多摩役員と木谷氏来訪

6月18日 岡田京子氏来訪

19日 1Fエアコン取り替え

21日 岡田京子氏来訪

7月5日 網島信一氏、長野の木村快を来訪

14日 現代座創造グループ会議

27日 緑町第2町会役員会

毎月第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

【現代座ホール】

5月1〜7日 劇団希望舞台「釈迦内極唄」稽古

30、31日 「クロジ」写真撮影

6月3〜30日 クロジ「ポルトウスの蠹」稽古

7月8〜21日

燐光群「熱海殺人事件VS売春捜査官」稽古

【三階小ホール】

5月18〜26日 BONBON組「HOTEL EDO」公演

30日〜6月2日

「スクリーンで見る木村快の作品」第2回「出航」

6月7、8、20〜30日 希望舞台「釈迦内極唄」稽古

7月1〜4日 劇団希望舞台「釈迦内極唄」稽古

25〜27日 スタジオ・ポラーノ稽古

28日 津田リトルコンサート

隔水曜日 朗読教室

毎火曜・木曜日 ヨガ教室

【定期使用 一階サロン】

毎金曜・日曜日 教育文化経営学院（学生支援）

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 iPad 熟年講座

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費（現代座レポート購読料を含む）

- 一般会員 3,000円
- 協賛会員 10,000円（1口以上）
- 郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座